

令和6年度 自己評価および学校関係者評価書

令和7年3月19日
函館市立戸井学園・戸井幼稚園

1 本年度の重点教育目標

『 粘り強くやってみよう 』
～ 一人一人が喜んで遊び、自己を充実させていくために ～

2 本年度の取組の重点

- ①幼稚園教育要領に基づく幼児期にふさわしい生活の展開
②少人数の良さを生かした個を大切にする教育活動の展開 ③心身の調和を促し支える環境と家庭との連携
④相互に深め合い高め合う指導体制の充実 ⑤家庭・地域と連携した途切れない教育の推進

3 自己評価結果に対する学校関係者評価

分 野	評価項目	自己評価結果		学校関係者評価	
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善の方策の評価
①幼稚園教育要領に基づく幼児期にふさわしい生活の展開	幼児期の発達の特性を踏まえた教育活動の展開、計画の推進がなされていたか。	a	丁寧に個々を見取り、実践を積み上げることで、保育の質の向上に努めたい。	A	A
	幼児がしたいことにじっくりと取り組み、主体的に遊び生活することを支える教育活動が展開出来たか。	a	夢中になって遊ぶ、目的を持って取り組む、常に日々の変化に寄り添った教育活動の工夫を重ねていく。	A	A
②少人数の良さを生かした個を大切にする教育活動の展開	一人一人の興味関心に寄り添い、生活体験を広げる環境の構成や援助が出来たか。	a			
	地域の自然・施設・人材を生かし直接的な体験を促し、豊かな教育活動が展開出来たか。	a	地域との菜園活動や近隣の保育園との交流を始めることが出来た。次年度も継続したい。	A	A
③心身の調和を促し支える環境と家庭との連携	生活習慣の確立、食や運動など心身の調和のとれた発達を促すことが出来たか。	a		A	A
	園ならではの活動を親子で楽しみ、子育ての楽しさや子どもの成長を共に感じる工夫がされていたか。	a	指導内容や子どもの育ちを便りや個人ノートで伝えると共に、保護者参加による行事の企画を増やすことが出来た。	A	A
④相互に深め合い高め合う指導体制の充実	教育目標・重点教育目標の具現化に努め、共通理解のもと実践を推進したか。	a		A	A
	業務の質的転換を図り、勤務環境の整備がなされたか。	c	職員数減少による業務増加に伴う調整改善が必要である。	A	A
⑤家庭・地域と連携した途切れない教育の推進	学校運営協議会の取組で、各種教育活動に、家庭・地域の人々や環境を最大限に活かしたか。	b	次年度に向けての具体的な連携のアイデアや意見を整理し、一層の活用を計画していく。	A	A
	合同設置の学校運営協議会や近隣校とのつながりを生かし、見通しを持った教育の展開が出来たか。	a	効果的に教育推進がなされるよう、出来ることからはじめ、持続可能な連携を今後も模索していく。	A	A

■ 自己評価達成状況

a	ほぼ達成できた (8割以上)
b	概ね達成できた (6割以上)
c	十分ではない (4割以上)
d	達成できなかった (4割未満)

■ 自己評価の適切さ及び改善の方策の適切さにかかる評価

A	自己評価及び改善策は適切であり、取組を進めるべきである。
B	自己評価及び改善策は適切であるが、若干の修正は必要である。
C	自己評価及び改善策の方向性はよいが、若干の修正が必要である。
D	自己評価及び改善策を再度検討する必要がある。